ノ爲メ、摘出ノ際一ツ卵巣ヲ發見シ得サルトキハ、一側ノミ切除スルモ効ナキヲ以テ、其儘放置スルカ、或ハ子宮ヲ切除スベシ。腹壁ノ縫合ハ卵巣切除術ニ於ルト同一ナリ。只腹壁厚ク、創口短キヲ以テ、一層注意セサレハ、腸ヲ傷クルコアリ。手術後ニハ子宮出血ヲ起スコアレ𪜈、多クハ直ニ止血スルヲ以テ、氷ヲ貼シ膣内温水注入等ヲ行フニ及ハス。局部ノ腹膜炎ヲ起ストキハ、術後直ニ發熱、疼痛ヲ起シ、往々多量ノ滲出物ヲ生スルコアレ𪜈、防腐法行ハル、今日ニ在テハ、其偶發症ヲ發スルコ稀ナリ。

卵巣摘出術ノ豫后ハ一般良ニシテ、而シテ益々佳良ニ赴クモノナリ。今一八八五年迄ニ行ヒタル、ペがる Hegar 及たいと Tait 手術成績ヲ擧レハ、三百七十七中死亡三十三ニシテ九、二%ナレ𪜈、其豫后ハ今日全ク佳良トナレリ。

第七部　喇叭管ノ疾病

第一篇　總論

第三百四十七節　喇叭管ハ、みゅるれる管ノ三分一部ヨリ發成シ、內端ハ直角ヲ成シテ子宮ニ開口シ、外端ハ剪採ヲ以テ、腹腔ニ開口スル長サ八、六至九、五仙迷ノ管ニシテ、筋層其主

部ヲ占メ、內面ハ纖毛上皮ヲ有スル粘膜ヲ被リ、外面ハ腹膜ヲ被リ。而シテ其ノ筋層ニハ內外二層アリ、外層ハ縱行筋纖維ヨリ成リ、內層ハ輪狀筋纖維ヨリ成リ、內端ニ於テハ子宮ノ筋纖維ニ移行シ、外端ニ於テハ剪採ニ達ス。該管ハ外半分ハ稍々擴張シ、へんれー Henle ノ所謂喇叭管膨隆 Ampulle ヲ形成シ、子宮端ハ狹隘トナリ、輪狀筋喇叭管ヲ括約スルモノヽ如シ。粘膜ニハ三至五個ノ大皺襞アリ、各皺襞間ニハ八至十個ノ小皺襞アリ、表面ハ灰白色ノ薄キ粘液ヲ被リ、纖毛ハ總テ子宮ニ向テ運動ス。剪採ハ四五個ノ大ナル、八九個ノ小ナル瓣ヨリ成リ、就中其一個ハ延長シテ、卵巣ニ達スルモノニシテ、各瓣ハ其質甚タ軟弱ナルヲ以テ、能ク運動スベシ。

喇叭管ハ卵及精虫ノ通路ヲ成シ、其邂逅ヲ助クルニアレ𪜈、止皮ハ專ラ卵ヲ、子宮ニ送クルノ、用アリテ、精虫ノ進行ニハ、寧ロ反對ノ運動ヲ爲スモノヽ如シ。ろーろん、たいと Lawson Tait ハ喇叭管ハ、月經ニ大關係アルモノトシ、喇叭管ヲ切除スレハ、卵巣ヲ存スルモ、月經ハ自ラ閉止スベシト論シ、月經時ニ死亡シタル婦人ニ、新鮮ノ墜卵瘢痕ヲ發見セサルコアリトテ、墜卵ハ月經ニ密接ノ關係ナキヲ証セリ。然レ𪜈其論ハ、未ダ確實ナラズ。

第三百四十八節　子宮內及ビ膣內ニ注入シタル、藥液、空氣等、喇叭管ヲ經テ、腹腔內ニ達スルコアルハ、爭フベカラザル事實ニシテ、劇痛、人事不省、或ハ腹膜炎ヲ發シ、死ヲ致シタル例少カラス。其理ヲ明ニセン爲メ、ぼーるまん Haurman ハ死躰ノ子宮頸管內ニ、注射器ヲ送入シ、微力或ハ强力ヲ以テ、着色液ヲ注入シタルニ、該液ハ强力ヲ用ユルニ當テ、初テ之ヲ喇叭管或ハ腹腔內ニ發見スレ𪜈、微力ヲ用ユルトキハ、毫モ其痕跡ヲ見ルコ能ハズト云フ。然レ𪜈ハ上ゼるぐるぐ Haselberg ハ鉄液ヲ、すぺーとハ鉛糖ヲ、剖見上腹腔內ニ發見セリ、――膣內注入後ニモ、尙ホ人事不省トナリタルコアリ――生躰ニ於テハ、其作用恐ラクハ、死躰ト異ナリテ、喇叭管子宮

端ノ括約筋及ビ子宮筋ノ不正ノ收縮ニ依ルモノナランカ。

第三百四十九節　喇叭管ノ構造ハ子宮ト同一ニシテ、子宮疾病ニ罹ルトキハ、喇叭管モ亦タ、同病ニ罹リ易クへんにぐ Hennig、うぃんける Winckel 等ハ、婦人剖見中其半數以上ノモノニハ、喇叭管ニ疾病アリシ痕跡ヲ發見セリト云フ。然レドモ喇叭管ハ、其位置骨盤ノ深部ニアリ且ツ知覺鋭敏ナラザルヲ以テ、多少ノ變狀アルモ、生前其症狀ヲ呈セザルヿ多シ。直腸及ビ膀胱内診斷法、特ニねーげるらーと Noeggerrath ガ子宮ヲ强ク牽下シテ、之ヲ直腸及膀胱内ヨリ按スル法ヲ、發見セシ以來、大ニ進歩シ、腹壁弛緩シタルモノニテハ、往々其腫起、屈曲等ヲモ、診斷シ得ルヿナキニアラザレドモ、概シテ其病理ハ不明ニテ、療法モ亦タ甚ダ不完全ナレハ、病驗上喇叭管ノ疾病ハ其用尠シ。喇叭管ノ發育異常ニ付テハ、第二部ニ於テ之ヲ詳論セリ、故ニ爰ニ述ベズ。

第二篇　喇叭管ノ位置異常

第三百五十節　喇叭管ノ位置變狀ハ剖見上數々目擊スル處ノ現象ナリト雖モ多クハ子宮及卵巢ノ疾病ニ續發スルモノニシテ、特發スルハ稀ナリ。子宮ノ轉位、屈曲、下降及内翻ニテ、變位ヲ起シ、又卵巢「へルニア」ニ喇叭管、變位ヲ起スハ勿論ナリ。特ニ著シキ變位ハ、卵巢及子宮ノ腫瘍ニ續發スルモノニテ、卵巢囊腫、子宮ノ纖維筋腫ニテハ、只其位置ヲ變スルノミナラズ、往々强ク延長セラレ、中央ヨリ斷裂スルヿアリ。骨盤腹膜炎ニテハ該腹膜、特ニ喇叭管ニ腫瘍アリテ、其重量ヲ增ストキハ、どーぐらす腔ニ下降シ、癒着シテ全ク運動シ得サルヿアリ。然レドモ周圍器官ニ變化ナキ際ニ於テモ、猶ホ喇叭管ニ變位ヲ起スヿナキニアラズ。べらるど Berard ノ實驗ハ其一ニシテ、卵巢ニハ變位ナクシテ喇叭管、「へルニア」ヲ起セリ。此他先天性變位アリト雖

モ、第二部ニ詳ナレハ、爰ニ贅セズ。

總テ喇叭管ノ變位ニハ、特異ノ症狀ヲ發セズ、如何トナレバ常ニ其主病他ニ存スレバナリ。然レモ若シ强テ其症狀ヲ索レハ、不姙ハ即チ必發ノ結果ナリト雖モ、療法ニ至リテハ、殆ンド施スベキモノナシ。

第三篇　喇叭管炎症

第一章　喇叭管炎症ノ病理及其種類

第三百五十一節　喇叭管ノ炎症ハ、多クハ子宮實質炎及ビ周圍炎ニ合併シ、急性或ハ慢性ニ發スルモノニシテ其種類多シト雖モ、之ヲ大別シテ二種トス。

一「カタル」性喇叭管炎　へんにぐ Hennig ハ之ヲ急性及ビ慢性炎ノ二種ニ區別セリ。急性炎ニテハ、喇叭管ハ稍々延長シ、粘膜殊ニ其外部ニテハ、赤色、柔軟トナリ、中性或ハ酸性蛋白樣ノ粘液ヲ以テ、其表面ヲ被ヒ、粘膜及ビ剪採ハ往々癒着シ、時ニ或ハ卵巢トモ癒着シ、全管隆狀トナリ又迂曲シテ奇觀ヲ呈スルコトアリ。慢性炎ハ急性炎ヨリ發起スルモノニシテ、粘膜ハ初メ稍々肥厚シ、蒼白トナリ、散在性ニ怒張シタル靜脈ヲ存シ、往々多量ノ粘液ヲ分泌シテ、該管ヲ擴張スルヿ

アリ。　內腔强ク擴張サルヽトキハ、琵毛上皮ハ圓柱上皮或ハ扁平上皮ニ變シ、筋層ハ菲薄トナリ、所謂喇叭管水腫 Hydrops tubae ヲ形成ス。　若シ分泌少クシテ、粘膜陷沒部ト隆起部ヲ生スルトキハ、恰モ膣部糜爛ト同一ノ形狀ヲ呈スルモノニシテ、之ヲ新生「カタル」性喇叭管炎 Salpingitis Catarrhalis proliferans ト稱ス。

第三百五十二節　二實質性喇叭管炎

Salpingitis interstitialis ハ管壁膿ヲ生シ、所謂喇叭管膿腫 Pyosalpinx ヲ形成スルモノニシテ、初メ小細胞浸潤ヲ起シ、速ニ筋質ヲ侵シ、壁內處々ニ小出血ヲ起スモノナリ。　細胞浸潤ヲ起ストキハ、該壁ハ肥厚シ、筋纖維ハ其壓迫ニ依テ、漸次脂化消失シ、液分吸收セラレ、全壁瘢痕組織ニ變スルカ、或ハ多クノ囊腫ヲ形成シ、其內ニ粘液、膿等ヲ塡ツルニ至ル。　此囊ヲ形成スルモノヲ、濾泡性喇叭管炎 Salpingitis Follicularis ト稱シ、其內容ハ濃厚トナリ、乾酪性變質ヲ起スナリ。　實質性喇叭管炎ハ、管內ノ膿ヲ腹腔內ニ漏スカ、或ハ壁ノ炎症ヲ觸接性ニ周圍ニ及ホノ傾ヲ有スレモ、腹膜ハ義膜ヲ生シ、其炎症ノ蔓延ヲ防止スル性質ヲ有スルヲ以テ、多クハ喇叭管ト子宮、卵巢、どぐらす腔等トノ、癒着ヲ起スニ過ギスシテ、爲ニ汎發腹膜炎ヲ發スルヿナシ。

第二章　喇叭管炎ノ源因

第三百五十三節　喇叭管炎ハまるちん Martin ノ調査ニ依レハ、二百八十七回中、百四十回ハ兩側ニ發ス。　偏側ニ發スルモノニ於テハ左側（九十七回）ニ發スルモノ、右側（五十回）ニ發スルモノ多シ。　年齡ハへんなく Henning ノ調ニ依レハ

十六年前ノモノ	五人
十七年ヨリ三十年迄テノモノ	一〇人
三十一年ヨリ四十六年迄テノモノ	一六人
四十七年ヨリ六十年迄テノモノ	八人
六十一年ヨリ八十一年迄テノモノ	五人

ニシテ、多クハ交接期ニアリ。　源因中最モ多キモノハ、子宮ノ炎症、及ヒ痲疾ニ罹リタル男子トノ交接ナリ。　ねげるらーと Noeggerrath ノ說ニ依レハ、男子ハ一回痲疾ニ感染スレハ、治スルヿナキモノニシテ、膿漏其他ノ症狀全ク去ルモ、尙ホ能ク婦人ニ之ヲ傳染セシムルモノニシテ、喇叭管炎ヲ誘記スルヿ多シ、此ニ亞クモノハ、子宮筋纖維ノ化膿、癌腫、卵巢炎、骨盤腹膜炎、骨盤蜂窩織炎等ニシテ、「コレラ」、「チフス」、急性皮疹、結核、梅毒、腺病等ニモ併發スルヿアリ。　特發ハ甚ダ稀ナリト雖モ、月經及產蓐時ノ交接勞働、感冒、飲酒等ニ依テ之ヲ發スルコトアリ。　又腹部ハ打撲衝突等モ稀ニ此源因トナルコトアリ。　此他へんなく Henning ハ急性熱中毒ニテ、喇叭管炎ヲ發セシモノヲ、實驗シタルコトアリト云フ。

第三百五十三章　喇叭管炎ノ症候及療法

第三百五十四節　喇叭管炎ハ子宮或ハ子宮周圍ノ疾患ト合併スルヲ以テ、其症候ハ其原病ノ症狀ニ蔽ハレテ、之ヲ發スルヿナシ。下腹部及外陰部ニ不明ノ鈍痛アリテ、勞働、交接、及月經時ニ增惡シ、仔細ニ之ヲ檢スルモ、子宮及卵巢ニ其原因ヲ發見スルヿ能ハスシテ、而ノ永ク、特ニ痳疾傳染後不姙ナルモノハ、喇叭管炎ノ疑アルモノナリ。

喇叭管ニ狹窄或ハ閉鎖ヲ生シ、分泌液ヲ貯溜シ、喇叭管水腫ヲ生スルトキハ、其診斷ハ容易ニシテ、若シ同時ニ膣內ヨリ液汁ヲ漏ストキハ、其診斷確實ナリ。腫瘍化膿スルトキハ、惡寒、發熱、疼痛ヲ發シ、腹內ニ破裂スルトキハ、急性腹膜炎ヲ發シ、其症狀ヲ顯ハスモノニシテ、其診斷ハ前章ニ明ナリ。故ニ末期ニ至レハ、其診斷ハ稍容易ナリト雖トモ、初期ニハねーげるらーと Noeggerrath ノ法ニ從ヒ、子宮ヲ牽下シテ、双合診ヲ行フモ、之ヲ明ラカニセザルヿアリ。但シ此確診ヲナスニハ、腫瘍ヲ觸ルヽノミナラズ、其子宮トノ連續ヲ發見スルヲ必要ナリトス。

第三百五十五節　豫后ハ全治スルヿナキニアラザレトモ、狹窄、屈曲等ヲ殘シ、不姙トナリ易シ。故ニ死ヲ招クハ稀ナリト雖モ、不良ナリ療法ニハ下腹ノ冷罨法、瀉血ヲ行ヒ、沃度、鉄劑等ヲ內服セシメ、坐浴ヲ命スヘシ。喇叭管腫瘍ヲ生スルトキハ、其療法第五部喇叭管水腫ノ療法ヲ行フヘシ。

第四篇　喇叭管出血 Apoplexia tubarum

第三百五十六節　喇叭管ハ毎月經時、及子宮、其他骨盤內炎症ノ際ニ、其粘膜面及組織間ニ出血スルヿアリ。又「コレラ」、「チフス」、痘瘡、產褥熱等ニテ死亡セシ婦人ノ喇叭管內ニ、出血點ヲ發見スルヿアルモノニシテ、ろきたんすきー Rokitansky ハ肋膜炎肝臟炎等ニ於テモ、出血ヲ實驗セシヿアリト云フト雖モ、小量ノ血液ハ全ク吸收サレテ、後害ヲ殘スヿナキヲ以テ、病驗上其用ナシ。多量ニ出血スルトキハ、喇叭管ヲ擴張シテ、血腫ヲ生スルカ、或ハ血液ヲ腹腔內ニ漏シ、腹膜炎或ハ子宮後血腫ヲ生スルモノニシテ、其結果ハ喇叭管姙娠ノ破裂ト同一ノ症狀ヲ來スルナリ。

第五篇　喇叭管ノ新生物

第三百五十七節　總テ子宮ニ發スル新生物ハ、喇叭管ニモ之ヲ發スレトモ、概シテ其發成ハ稀ニシテ、多クハ子宮ヨリ轉移シ、而ノ極メテ徐々ニ發育シ、子宮ニ於ケル如ク、膨大スルヿナシ。故ニ病驗上其用ハ甚ダ少ナキヲ以テ、今只其概畧ヲ述レハ

一　筋纖維腫　えひぶそん Simpson ハ小兒頭大ノ筋纖維腫ヲ實驗シタリト雖モ、常ニ甚ク小ニシテ、豆大ヲ出テズ。　其組織ハ筋纖維ト結締纖維ヨリ成リ、往々莖ヲ存シ、二三個同時ニ發成スルヿアリ。多クハ腹膜下ニ發成シ、粘膜下ニ發成スルハ甚ダ稀ナリ。へんにぐ Hennig ハ二

百回ノ剖見中、二回纖維性小背腫ヲ粘膜下ニ發見セリ該腫瘍ハ、其質甚タ固クハ恰モ軟骨ノ如クナリシト云フ。

二、乳嘴腫　へんにぐ Hennig ガ慢性炎ニ罹リシ、喇叭管ノ粘膜ニ、一回之ヲ實驗セシコトアルノミ。

三、囊腫　喇叭管膨隆部、稀ニ子宮端ノ筋層及粘膜ニ隣接シテ、之レヲ發スルコトアルモノニシテ、其大サハ粟粒至大豆ヲ出テズ。此囊腫ハ屢〻多クシテ、うぃんける Winckel ハ婦人ノ剖見中、四%ハ存スト云フト雖モ、生前ニハ之ヲ發見スルコトナシ。もるがにー Morgagni ノ水泡体モ、亦タ囊腫ノ一ナレモ、寧ロ先天性異常ニ屬スルヲ以テ、爰ニ述ヘス。

四、脂肪腫　喇叭管ノ外三分ノ一部ニ發成シ、往々扁靱帶間ニ突出スルコトアレモ、ろきたんすきー Rokitansky ガ棒大ノ腫瘍ヲ實驗セシモノ、外ハ、甚タ小ニシテ、生前害ヲ加フルコトナシ。

五、癌腫　喇叭管ニ特發スルハ稀ニシテ多クハ子宮及卵巣ノ癌腫ニ續發ス。くれっぷす Krebs ハ七十三人ノ子宮癌腫患者剖見中、十八回喇叭管ニ其浸潤ヲ發見セリ、喇叭管ハ小指大ニ肥厚シ、周圍器官ト癒着セリ。生前其症狀ヲ顯ハスハ、罕ナレモ、ぢっとりひ Ditrich ハ、腹腔内ニ破裂セシモノヲ實驗セリ。總テ此新生物ハ、生前ニ之ヲ發見スルモ、施スベキ治療甚タ尠シ。

第六篇　喇叭管結核

第三百五十八節　喇叭管結核ハ、肺、腸、腹膜等ノ結核ニ續發スルノミナラズ、往々特發スルコトアルモノニシテ、生殖器ノ結核中、最モ多キモノナリ。婦人剖見中うぃんける Winckel ハ一%、あみあす Namias、ぢうしし Kiwisch ハ四十八中一人、喇叭管結核ヲ發見セシモノニシテ、多クハ壯年期ノ婦人ニアレモ、小兒ニモ之ヲ發シ、多クハ腹腔端ヨリ漸次子宮端ニ及ブガ如シ。急性ニ來ルモノハ、多クハ兩側ニ發シ、慢性ノモノハ偏側ヨリ發スルコトアルモノニシテ、へんにぐ Hennig がいる Geil 等ノ調査ニ依レハ、右側五十九、左側五十四ナリ。

喇叭管ノ筋層及血管ハ肥厚シ、其兩端ハ閉鎖セラレ、内腔ハ擴張シ粘膜ハ往々剝離シ、該部ハ乾酪樣物ニ變質シ、又全喇叭管ヲ乾酪樣物質ニテ充塡シ、顯微鏡的驗査ヲ行フ〻ハ、其内ニ黴菌ヲ發見スベシ。斯ノ如ク變質シタル喇叭管ハ、多クハ子宮ノ側方ニ下垂シ、扁靱帶皺襞狀ヲ爲シ、子宮ト癒着スルナリ。

第三百五十九節　ちありー Chiari、こーるちー Courty、へがる Hegar 等ハ、生前喇叭管結核ヲ診斷セシモノニシテ、腹壁弛緩シ、膨擴潤ナルモノニテハ、喇叭管肥大スルカ或ハ隆狀ヲ爲シ、子宮ノ兩側ニ癒着スルヲ以テ、喇叭管ノ腫瘍ナルコトヲ知ルコト難カラサレモ、果シテ結核ナルカ、將タ他ノ新生物ナルカヲ鑑別スルニハ、白色ノ分泌物ニ注意シ、其内ニ黴菌ノ存在ヲ發見スルコト必要ナリ。若シ肺、腸ニ結核ヲ發スレハ、其診斷ハ確實ニシテ、遺傳ノ有無ヲ調査スルコト、亦タ必要ナリ。療法ハ特發性ノモノニシテ、他ニ傳染ナキトキハ、速カニ喇叭管切除術ヲ行フベシト雖モ、初期ニ其確信ヲ爲シ得ルハ殆ント稀ナリ。結核他ノ器官ニ蔓延スルモノニテハ、只白帶下等ノ對症的療法ヲ施スニ過ギズ。

第七篇　喇叭管姙娠

第三百六十節　喇叭管姙娠ハ、産科ニ屬スルモノナレ𪜈、其原因ハ喇叭管ノ狹窄、屈曲、擴張、子宮端ノ閉鎖、粘膜「ヘルニア」等ニシテ、多クハ二三ケ月ニシテ破裂シ、即死セサルトキハ、腹膜炎、子宮后血腫等、婦人科的病ヲ誘起スルヲ以テ、聊カ述ル處アラントス。子宮外姙娠ハ、概シテ甚ダ少ナク、かーる Carl ぶらうん Braun すぺーと Späth ノ「クリニック」ニ於テ、七年間ニ六万人ノ姙婦ヲ診察セシ内、子宮外姙娠ハ五人ニ過ギザリシト云フ。其年齢ハへんにぐ Henning ノ調査ニ依レハ

二十年以下	二人
二十一年至三十年	三〇人
三十一年至四十年	四六人
四十一年至五十年	六人
五十一年至六十年	一人

ニシテ「ウヰン」ニ保存スル標本十六中、喇叭管姙娠九個ニシテ、子宮外姙娠ノ三分二ハ、喇叭管姙娠ナリ。而シテ喇叭管姙娠中、最モ多キモノハ其中央ニ位スルモノニシテ、腹腔端ノモノ之ニ亜ギ、子宮端ノモノハ最モ少シ。

第三百六十一節　受胎卵喇叭管ニ附着スルキハ、其粘膜肥厚シ、恰モ子宮ニ於ケル如ク、脱落膜及胎盤ヲ形成スレ𪜈、喇叭管ハ子宮ノ如ク、強ク擴張シ得サルヲ以テ、其最モ非薄ナル部位、特ニ胎盤附着部ハ、破裂スルヿ多シ。破裂ハへっける Hecker ノ調査ニ依レハ、四十五回中二十六回ハ、第二ケ月ニ、十一回ハ第三ケ月ニ、七回ハ第四ケ月ニ、一回ハ第五ケ月ニ起リシモノニシテ、大出血ヲ起シ、虚脱ヲ起シテ死亡スルカ、顔面蒼白、脈搏細微、嘔吐、人事不省トナリ、冷汗ヲ發シ、腹膜炎ヲ起スカ或ハ子宮后血腫ヲ生スルモノニシテ、婦人ハ自ラ其破裂ヲ自覺スルヿアリ。

子宮端ニ發成スルモノニ於テハ、子宮モ亦タ稍々擴張シ、通例ヨリ長ク胎内ニ存スルヿアルモノニシテ、くろーぶ Klob ハ實ニ十三ケ月、胎内ニ存セシモノヲ實驗セリ。腹腔端ノ姙娠ニテハ、剪採擴張シ、扁靭帶或ハ腹腔、該腔ノ一部ヲ形成シ、常ニ喇叭管中央部ノ姙娠ヨリ長ク破裂セザルモノナリ。

第三百六十二節　總テ喇叭管姙娠ニ於テハ、他ノ子宮外姙娠ト同シク、當初ニハ子宮肥大シ、膣及外陰部充血シ、通常ノ姙娠ト、同一ノ症狀ヲ呈スルヲ以テ、患者ハ其異常アルヿヲ知ルヿナシ。然レ𪜈細カニ注意スルキハ、乳房ノ緊張少クシテ、月經ヲ起スヿアリ。二三ケ月ニ至リ、喇叭管膨張シ、周圍ヲ壓迫シ、排尿障害、疼痛等ヲ發スレハ、其診斷明ナルベシ。

豫后ハ第一ケ月ニ破裂スレハ、后血腫ヲ生スルノミニシテ、死ヲ致スヿ少ナシト雖モ、二ケ月以後ノモノニテハ多ク死ナリ。

療法ハ喇叭管ノ穿刺、穿刺後沃丁注入、電氣療法、腹壁切開術等、一般子宮外姙娠ニ行フモノト同一ニシテ、産科ニ讓リ、爰ニ之ヲ述贅ゼズ。

婦人病學第一卷終

婦人病學正誤

丁數	行數	誤	正
目錄七	八	保單用法	臥保用法
二六	七	卵巢癌腫	卵巢粘腫
一	七	及ノ下ニ	孕ヲ脫ス
八	一一	Froind	Freund
一七	八	壓破シ	壓排シ
二〇	二	直腸腔	直腸壁
二八	二	事ヲ腔	事ヲ壁
二九	二	腔部ニテ開放スル	腔內ニテ開放スル
四三	一五	Ellrs	Ellis
同	一六	Bantock	Bantock
四七	一	おもらんでるOsrander	おしあんでるOsiander
七七	一七	ぐるぐる	ぐるれる
七八	一	れんで一 Lente	るいて一 Leute
八四	一四	Nayer	Mayer
九七	八	Graily Hewitt	Hewitt ノ上ニ「ク」ヲ脫ス
一〇七	二	一其局部チ	其一局部チ
一一一	八	「ミマンくン」	「ミュンくン」
一一七	九	クロアケー	クロアーク
二五五	七	滝丘	陰丘
二八七	八	鑛塩シ一點タリトモ	鑛塩ヲ一滴モメタリトモ
一八七	一四	Taia	Taith
一八八	一六	巢卵	卵巢
二〇二	七	嬰兒ノ	胎兒ノ
二二七	九	相當スルニ	相當スル
二二二	八	Stelnlin	Steinlin
二二八	五	形成セシチ	形成スルチ
二三三	六	Biebermann	Liebermann
二四一	一一	わるたぶる	わるたぶる
二四八	一五	腹腹內	腹腔內
二五二	三	Riwisch	Kiwisch
二五四	二	Golason	Goldson
二六三	一五	又腸壁	又腹壁
二九八	一〇	Preund	Freund
三〇三	一二	腹腔チ	腹壁チ
三〇九	二	歲シ	濕シ
三三一	一五	Hueller	Mueller
三四三	一五	Bryamt	Bryant
三四六	一六	起術時ノ	手術時ノ
三五四	一	Litfmam	Litiman

明治二十五年三月廿七日印刷
仝　年三月廿八日出版

定價金壹圓五拾錢

著者　熊本縣士族　山田謙治
石川縣金澤市梅本町西横町壹番地寄留

發行人　金原寅作
東京市本郷區湯島切通坂町二十一番地

印刷人　藥研堀活版所　木元由太郎
東京市日本橋區藥研堀町三十三番地

版權登錄

版權所有

工168-35

東京市本郷區湯島切通坂町
金原寅作

發兌元
日本橋區馬喰町二丁目
島村利介

日本橋區通三丁目
丸善書店

賣捌
本郷區湯島切通坂町
南江堂

大坂市心齋橋筋壹丁目
松村九兵衛

京都市上京區二條通
若林茂一郎

書肆
石川縣金澤市片町
益智館

仝　尾張町
雲根堂

富山縣富山市東四十物町
中田書舗

熊本縣熊本市新一丁目
長崎次郎

56
12

059965−001−7

56−12

婦人病学

山田　謙治／著

M25−27
CBI−0242